

長崎女子短期大学における短大フォーラムの成果検証

濱 口 なぎさ・森 弘 行・武 藤 玲 路

Verification of the results of the Junior College Forum at Nagasaki Women's Junior College.

Nagisa HAMAGUCHI · Hiroyuki MORI · Ryoji MUTO

キーワード：短大フォーラム、学生交流、アクティブ・ラーニング、社会人基礎力、FD・SD

1. 問題と目的

1.1 学生交流によるアクティブ・ラーニングの浸透

2012年に文部科学省の中央教育審議会は、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」において、「我が国においては、(中略)社会の仕組みが大きく変容し、これまでの価値観が根本的に見直されつつある。(中略)このような時代に生き、社会に貢献していくには、想定外の事態に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力が求められる。生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。(中略)学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。(中略)学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。」と報告している。

また、この中央教育審議会の答申では、学生の主体的な学修を促す具体的な教育の在り方として、「学生に授業のための事前の準備(資料の下調べや読書、思考、学生同士のディスカッション、他の専門家等とのコミュニケーション等)、授業の受講(教員の直接指導、その中での教員と学生、学生同士の対話や意思疎通)や事後の展開(授業内容の確認や理解の深化のための探究等)を促す

教育上の工夫、インターンシップやサービス・ラーニング、留学体験といった教室外学修プログラム等の提供が必要である。」とも述べている。

この答申の中の他大学等の学生との交流は、以前から学生のクラブ活動や学友会活動などで行われていたと思うが、教職員が主導的な立場で「キャリア教育・職業教育のプログラム」として、他校との交流学習や産学官の連携事業等を積極的に策定・運営するようになったのは、2013年の「私立大学等改革総合支援事業」で経費の支援が行われるようになってからである。以後、高等教育の現場では、各地で大学・短大間のコンソーシアムが形成され、他大学等の学生同士が合同で、主体的に問題を発見し解決する能力を身に付けるアクティブ・ラーニングの事例が大学等のウェブサイトで数多く紹介されるようになってきた。

1.2 短大フェスと短大フォーラムの軌跡

長崎女子短期大学は、長崎・佐賀・福岡の7短大が加盟する短期大学コンソーシアム九州主催の「短大フェス」に、2012年度から2018年度まで計6回参画してきた。短大フェスは、複数の短大の学生が合同で各短大のステージ発表やブース展示等を行うイベントで、自校の学校紹介と短大教育の成果発表・魅力発信を目的としている。表1は過去6回の短大フェスの概要である。

短大フェスは、他短大との合同学園祭を大きな特色としているが、中央教育審議会が提唱するよ

表1. 過去の短大フェスの概要

| 回 | 開催時期 | 開催地区 | テーマ・趣旨 |
|-----|----------------|-----------------|----------------------------------|
| 第1回 | 2012年2月26日(日) | 福岡県：JR博多シティ | ～短大っていいね～ |
| 第2回 | 2014年2月15日(土) | 佐賀県：ゆめタウン佐賀 | 短大生の成果発表 ～短大っていいな～ |
| 第3回 | 2014年10月12日(日) | 長崎県：アルカス SASEBO | 7短大合同学園祭 |
| 第4回 | 2015年12月5日(土) | 福岡県：ソラリアプラザ | 7短大合同学園祭 ～クリスマス～ |
| 第5回 | 2016年12月17日(土) | 佐賀県：アバンセ | 7短大合同学園祭 ～わたしが輝く場所～ |
| 第6回 | 2018年10月21日(日) | 長崎県：観光通りアーケード | 8短大合同学園祭 ～家族の笑顔のために短大生ができること～ |

表2. 過去の短大フォーラムの概要

| 回 | 開催時期 | 開催会場 | テーマ・趣旨 |
|-----|--------------------------|---------------|---|
| 第1回 | 2017年3月9日(木) ～10日(金) | 京都光華女子大学短期大学部 | 蕾(つぼみ)：短大のこれからを、皆で考える場として、短大フォーラムの「蕾」はここからスタートしました。 |
| 第2回 | 2018年2月27日(火) ～28日(水) | 松本大学松商短期大学部 | つながり：大学を越えた学生同士のつながり。学生と教職員のつながり。短大と社会、地域のつながり。「つながり」を未来の学びに。 |
| 第3回 | 2019年3月4日(月) ～5日(火) | 愛知文教女子短期大学 | 輝きに満ちた学生が大学の垣根を越えて、共に学び、共に未来を語り合う、最高の場がここにはありました。 |

うな他短大の学生との交流学習や問題の発見と解決のディスカッション等については、第6回に多少取り入れた程度で、全体としては殆ど実施してこなかった(武藤・桑原・久保、2019)。

一方、短大フォーラムは、全国の短期大学の学生や教職員が集い、短大生の成長や短大の教育について他短大の学生同士が議論して互いに刺激し合い、その成果と短大の魅力を発信することを目的とする交流学習の教育プログラムである。2016年度から愛知文教女子短期大学・京都光華女子大学短期大学部・松本大学松商短期大学部・香蘭女子短期大学の4つの短大が共催で独自に実施してきたイベントで、これまでに3回開催している。表2は過去3回の短大フォーラムの概要である。

長崎女子短期大学は、これまで短大フォーラムには参加してこなかったが、学生の主体的な学修を促す具体的な教育の在り方として、他短大の学生同士との交流やディスカッションをメインとす

る短大フォーラムの教育プログラムには、大変興味深いものがある。

1.3 本研究の目的

上述した短大フォーラムは、単なる学校紹介や成果発表を主目的としている短大フェスと異なり、短大の関係者によるグループディスカッションを中心とした研修会で、学生同士と教職員同士の交流学習を主目的としている。学生は合同のアクティブ・ラーニングを通して社会人基礎力等の汎用的能力の涵養を目指し、教職員は合同の成果報告を通してFD・SD活動を実施している。

そこで本稿は、長崎女子短期大学における短大フォーラムの成果を検証し、今後の教育の質的転換に資する教育プログラム開発の参考にすることを目的とした。

2. 短大フォーラムの概要

2.1 テーマ・趣旨（実施要項の抜粋）

「今回で第4回となる短大フォーラムのテーマは、『ミライ』です。このテーマ『ミライ』に即して、①自分たちの『ミライ』、②短大の『ミライ』、③地域の『ミライ』について話し合い、各グループでまとめた内容を『共通の未来』として発表してもらいます。なお、カタカナで『ミライ』と表記したときは、自分自身が考える将来（像）を思い描いてください。漢字で『未来』と表記したときは、みんなの意見をまとめた共通の将来（像）と捉えてください。」

2.2 参加短大・参加学生

今回の短大フォーラムの参加者の内訳は表3のとおり。関東以西の21校199名が参加し、本学からは主催校の香蘭女子短大に次ぐ22名が参加した。

2.3 日時・会場

- 1) 日時：令和元年9月6日(金) 13:30～9月7日(土) 15:40
- 2) 会場：香蘭女子短期大学 1号館・7号館
(福岡市南区横手1-2-1)

表3. 短大関係の参加者数（単位：人）

| No. | 参加校名 | 教員 | 職員 | 1年 | 2年 | 計 |
|-----|---------------|----|----|----|----|-----|
| 1 | 中京学院大学短期大学部 | 2 | 2 | 3 | 0 | 7 |
| 2 | 愛知文教女子短期大学 | 1 | 1 | 2 | 1 | 5 |
| 3 | 西日本短期大学 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 4 | 大垣女子短期大学 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 |
| 5 | 大阪夕陽丘学園短期大学 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 6 | 長崎短期大学 | 7 | 3 | 4 | 2 | 16 |
| 7 | 長崎女子短期大学 | 3 | 0 | 19 | 0 | 22 |
| 8 | 京都文教短期大学 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 9 | 九州大谷短期大学 | 1 | 1 | 11 | 0 | 13 |
| 10 | 金城大学短期大学部 | 2 | 0 | 6 | 0 | 8 |
| 11 | 京都光華女子大学短期大学部 | 3 | 1 | 10 | 4 | 18 |
| 12 | 松本大学松商短期大学部 | 3 | 0 | 3 | 1 | 7 |
| 13 | 大妻女子大学 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 14 | 大妻女子大学短期大学部 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| 15 | 精華女子短期大学 | 1 | 0 | 3 | 5 | 9 |
| 16 | 九州龍谷短期大学 | 2 | 0 | 3 | 2 | 7 |
| 17 | 比治山大学短期大学部 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 18 | 西九州大学短期大学部 | 4 | 0 | 3 | 5 | 12 |
| 19 | 佐賀女子短期大学 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 20 | 九州産業大学造形短期大学部 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 21 | 香蘭女子短期大学 | 20 | 6 | 14 | 14 | 54 |
| | 計 | 60 | 20 | 84 | 35 | 199 |

表4. プログラム

| 第1日9/6(金) | 教職員 | 学生 |
|-------------|--|---------|
| 13:30～13:50 | 開会式：演奏、会場校挨拶、実行委員長挨拶 | |
| 13:50～14:50 | 基調講演：「過去と未来をつなぐ」、高橋康德氏、(株)カウテレビジョン 代表取締役社長 | |
| 15:00～16:00 | レクリエーション：「貿易ゲーム」 | |
| 16:20～17:50 | 情報交換会：「特色ある教育」のポスター発表 | グループワーク |
| 18:00～19:30 | 懇親会、各種催物、抽選会 | |
| 第2日9/7(土) | 教職員 | 学生 |
| 9:30～9:45 | 開会式 | |
| 10:00～11:10 | 基調講演：「糸島版マーケティングモデルでわかる産・学・官・地域共創の作り方」、岡祐輔氏、福岡県糸島市役所 企画部 秘書広報課ブランド推進係 主査 | グループワーク |
| 11:20～12:10 | パネルディスカッション | |
| 13:10～14:40 | 発表会 | |
| 15:10～15:40 | 表彰式、エンディング | |

2.4 グループワークの説明

1) 学生間の交流学习

参加学生は、全員5～6名の小グループに分かれ、自分の体験や短大の特色ある授業、将来の希望や提案等についてディスカッションを行った。最後にグループごとにパワーポイントでプレゼンテーションを行い、特に優れたプレゼンをしたグループは表彰された。

2) 学生の到達目標

- ①各グループ内のみんなの短大入学後の経験、短大在学時や卒業後にしてみたいことをシェアし、情報を共有する。〈刺激〉
- ②グループ内のみんなの話を受けて、短大生としてやれそうなこと、やってみたいことを話し合い、課題を含めて意見を集約する。〈集約〉
- ③②を中心に、自分たちが思い描く「共通の未来」について、プレゼン資料を作成し、全員の前で発表を行う。持ち時間は5分程度。〈発表〉

3) ブレーンストーミングのルール

- ①否定的な言い方をしない。他人の意見を批判せずアイデアを出すことに注力する。
- ②自由奔放でOK。こんなことを言ったら笑われはしないか等と考えず、思いついたことをどんどん言って、どんどん書く。
- ③質より量を出そう。数の多さを競いできるだけ多くのアイデアを出す。
- ④連想と結合で、他人の意見に自分のアイデアを加えて新しい意見としてOK。

4) 教職員間の交流学习

教職員も全員5～6名の小グループに分かれ、自校の特色ある授業についてローテーションでポスター発表を行った。内容は各短大で取り組んでいるGPやAP、授業等の紹介で、特に産学官が連携した商品開発や地域住民の問題解決等に関する事業が多かった。

3. 「学生の部」の成果検証

学生対象のプログラムは、1日目が(株)カウテレビジョンの高橋社長による基調講演「過去と未

来をつなぐ」、教職員を含めたアイスブレイク、そして「個人、短大、地域の未来について考えよう」というテーマでのグループワーク、交流会(懇親会)、2日目がグループワークの続きとそのプレゼンテーションである。

この2日間のプログラムで、学生にどのような成果が見られたのかを検証するために、2日間の短大フォーラム終了時に、社会人基礎力がどの程度身に付いたかのアンケート調査(図1、図2)を実施した。回答者数は、参加者全員の19名。

各設問の5段階のポイントの平均値を表5に示す。社会人基礎力の「チームで働く力」の平均評価ポイントは4.04と「前に踏み出す力」の3.61、「考え抜く力」の3.56と比較して高い評価を示しているが、「7. 発信力」、「12. ストレス・コントロール」はそれぞれ3.58、3.68と評価が低い傾向が見られる。「チームで働く力」の中では、「8. 傾聴力」90%、「11. 規律性」80%の学生が80点以上と評価している。

一方、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」については、「チームで働く力」の平均評価ポイントより低く、中でも「2. 働きかけ力」、で約70%、「3. 実行力」、「4. 課題発見力」、「5. 計画力」で50%強が70点未満と評価している。

このことから、講演やグループワークを通して他人の意見を聞く力、それによって周囲の状況を把握し、柔軟にそして真摯に役割を果たす能力を身につけたと評価しているものの、自ら課題を発見し、考え、計画立案し、他人に働きかけることを苦手としている。

「12. ストレス・コントロール」も約50%が70点未満と評価しており、自由記述の感想からも初めて会う他学の学生とのグループワーク、他学教職員の前でのプレゼンテーションでかなりの緊張感があったものと思われる。ほとんどの学生が最初は緊張したが他学の学生との交流が良い経験となった、他学の状況を知ることができたなど、プラスの評価をしている。一方、関西の学生のパワーに圧倒され疲れたとの記述もあった。

「楽しかったか?」、「役に立ったか?」の設問に対しては、評価ポイントの平均が4以上と高く

他学学生との意見交換により普段接しているコミュニティの中では得られないような意見や視点、経験に触れられたことが良い刺激になったものと思われる。参加者数が19名と少ないため有意な差とは認められないが、「10. 状況把握力」の評価が高い学生は「楽しかった」の評価が高く、「3. 実行力」、「4. 課題発見力」、「8. 傾聴力」の評価が高い学生は「役に立った」の評価が高い傾向

が見られた。

学生による自由記述の感想は以下の通りで、他学の初対面の学生との交流が良い経験、刺激となったようである。

- ・他校の人と協力しながらゲームをしたり、グループワークを行って発表をしたりするなどいろいろな人との交流ができ、とても楽しかったです。他校の人と関わることで新しい知識を得る

図1. 学生に配布したアンケート用紙

令和元年度 長崎女子短期大学「短大フォーラム」アンケート (2019.9.6)

※今回の短大フォーラムに参加して、以下の社会人基礎力の12の能力要素がどの程度身に付いたかを5段階で評価し、5~1の番号に○印をつけてください。また、短大フォーラムの成果や感想などについて自由に記入してください。

| | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|--------------------------|-------------|----------------------------|---------------------------------------|------------|-----------|----|--|
| 学籍番号: | | 氏名: | | (参加日数に○印をつける) 1日間 ・ 2日間 | | | | | |
| | 社会人基礎力 (経済産業省) | 主な内容 | 100~ 90点 | 89~ 80点 | 79~ 70点 | 69~ 60点 | 59点 以下 | 備考 | |
| 前 に 踏 み 出 す 力 (ア ク シ ョ ン) | 1. 主体性 | 物事に進んで取り組む力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 2. 働きかけ力 | 他人に働きかけ巻き込む力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 3. 実行力 | 目的を設定し確実に行動する力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 考 え 抜 く 力 (シ ン キ ン グ) | 4. 課題発見力 | 現状を分析し目的や課題を明らかにする力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 5. 計画力 | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 6. 創造力 | 新しい価値を生み出す力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| チ ー ム で 働 く 力 (チ ー ム ワ ー ク) | 7. 発信力 | 自分の意見をわかりやすく伝える力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 8. 傾聴力 | 相手の意見を丁寧に聴く力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 9. 柔軟性 | 意見の違いや立場の違いを理解する力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 10. 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 11. 規律性 | 社会のルールや人との約束を守る力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| | 12. ストレス・コントロール | ストレスの発生源に対応する力 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | |
| 全体的な感想 | | | | | | | | | |
| 短大フォーラムは楽しかったか? | (5段階評価で番号に○を付ける) 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 | | | 短大フォーラムは役に立ったか? | (5段階評価で番号に○を付ける) 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 | | | | |
| 意見・感想 要望など | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |

図 2. アンケートの回答集計

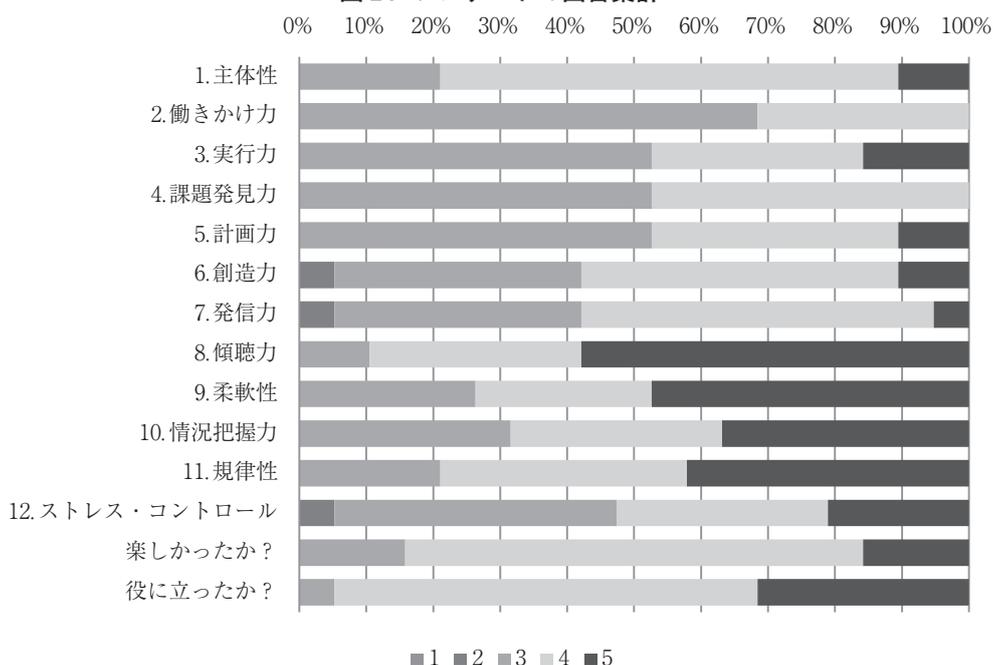


表 5. アンケート (社会人基礎力) 5段階評価の平均

| 社会人基礎力 | | 評価の平均 | |
|---------|-----------------|-------|------|
| 前に踏み出す力 | 1. 主体性 | 3.89 | 3.61 |
| | 2. 働きかけ力 | 3.32 | |
| | 3. 実行力 | 3.63 | |
| 考え抜く力 | 4. 課題発見力 | 3.47 | 3.56 |
| | 5. 計画力 | 3.58 | |
| | 6. 創造力 | 3.63 | |
| チームで働く力 | 7. 発信力 | 3.58 | 4.04 |
| | 8. 傾聴力 | 4.47 | |
| | 9. 柔軟性 | 4.21 | |
| | 10. 状況把握力 | 4.05 | |
| | 11. 規律性 | 4.21 | |
| | 12. ストレス・コントロール | 3.68 | |
| 感想 | | 評価の平均 | |
| 楽しかったか? | | 4.00 | |
| 役に立ったか? | | 4.26 | |

ことができたり、意見を交換したりすることができました。今後またこのような機会があれば参加したいと思いました。

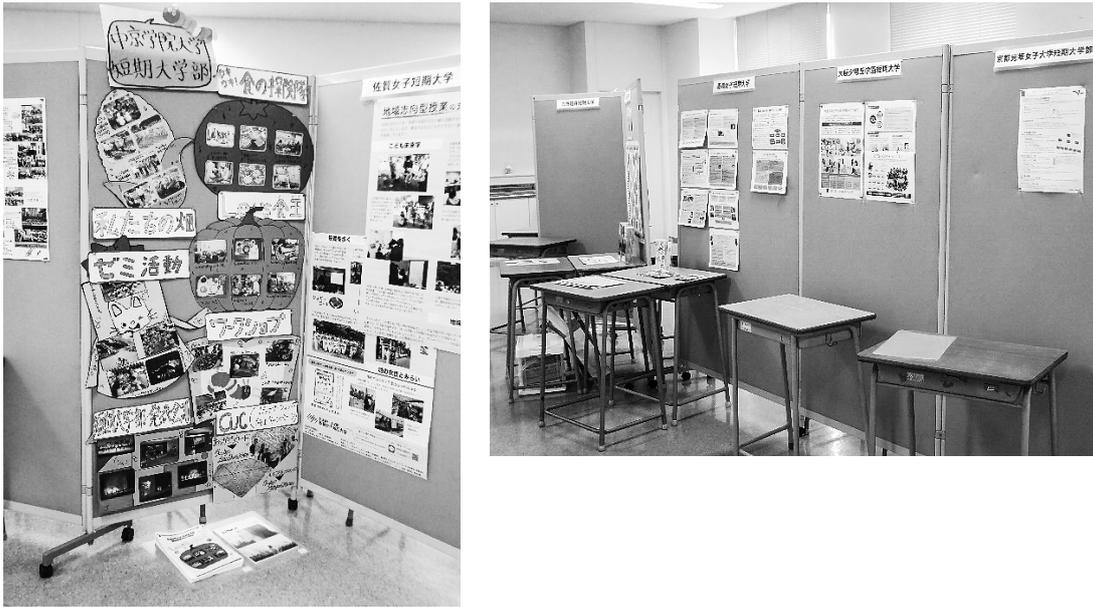
- ・初めて会った人達と話し合ったり意見を出し合ったりするのは、初めは慣れずあまり発言できず聞いているだけでしたが、少しずつ慣れて自分の意見も伝えられました。自分以外の人の体験や考え方などを聞くことでまた違った見方や考え方があることがとても参考になりました。これから未来に向けて今回の短大フォーラムで

学んだ事を役立てていけたらと思います。

- ・今回初めて短大フォーラムに参加してみて、その中でグループワークなど、他の学生の人たちと話し合い意見交換し互いの理解を深め合うことができました。また、グループで活動していく中で、自分がその中で何ができるかを考え自ら行動することを心掛けて短大フォーラムを過ごしました。
- ・他の短大の人たちと交流することによって、コミュニケーション能力の重要性や積極性がとても重要になるし必要だと思いました。私たちが考える未来には様々なものがあり、他県の人たちの発表を聞いてとても刺激を受けました。もっとよりよく学校生活を送るためには、グループワークを多く行い積極性やコミュニケーション力をつけることが大切だと思いました。
- ・想像以上に全く知らない人同士でいる時間が多く、常に気を遣っている自分がいて、2日目は疲労でいっぱいでした。関西の方の圧がちょっと強かったです。でも、いろんな県の学生と交流してみると様々な意見や考え、就活が終わった2年生がこれはした方が良いなど実体験を聞くことができたので良かったのかなと思います。何よりもホテルの時間が一番楽しかったです。(1日目の懇親会も)

- ・初めて短大フォーラムに参加してみたというものが分からなかったけど、参加してみると色々な大学の人と知り合うことができて、とても楽しかったです。様々な大学のことを知れて、女短でも取り入れたいことがたくさんあった。
- ・短大フォーラムに参加してみて、自分の「ミライ」について今までよりも詳しく明確に考えられたなと思いました。はじめましての人と「今まではどうだった」とか「何をした」とか詳しく話をして新鮮でした。
- ・各県から短大生が参加していて、県外の学生と触れ合う機会が無かったからとても新鮮でした。今回の短大フォーラムでは「コミュニケーション力」「協力性」などを学ぶことができた。自分のためになることをこの2日間で吸収できた。
- ・今回初めて短大フォーラムに参加して、初対面の人たちとゲームをしたり意見を交換したりすることでいろんなことを知ることができました。また、「ミライ」についてこれからどんな将来になっていったらいいか、どんな「過去」がこれからは繋がっていくか考えることができました。
- ・初対面の人に自分から意見を言ったり感想を言ったりすることは、とても勇気がいるしとても難しかったけど、自分自身にとってとても良い経験となりました。それぞれ皆違う意見などが聞けてすごく参考になったし勉強になりました。違う県の人と意見を考えたり、将来について語り合ったりする機会はなかなかないので、皆の考えを聞いて自分も頑張ろうと思えるとてもいい場でした。とてもよかったです。
- ・あまり他の短大の人と関わる機会がないので、いろんなことを話したり協力してパワーポイントを作成したり、貿易ゲームなどコミュニケーションが多くとれたりして良かったです。交通費や宿泊費を出してもらえて良かったです。
- ・1日目の講演がこれからの生活を改めて考えるとてもいい機会になりました。いろんな県から来た短大生と一緒に交流することができて、とても楽しかったし、とてもいい経験になりました。
- ・初めは貿易ゲームといって、5～6人のグループでゲームをしました。中々うまく進めることができず苦戦しましたが楽しく行うことができたので良かったです。また、他県や他大学の人たちと交流することで、自分の意見とは全く違う意見や考えを聞き出すことができ、とても良い刺激になったと思いました。楽しく、良い経験ができたので、これからの学校生活や将来の役に立つといいなと思います。
- ・今回の短大フォーラムではグループワークなどあって、初めての人たちとも意見を出しながら楽しく行うことができました。また、発表内容を作るにあたって、色々な県のことを多く知れたので良かったです。
- ・他の学校の短大生たちと話す機会がなかなか無かったので貴重な体験ができたと思います。
- ・今回初めて短大フォーラムに参加してみて、未来をテーマに深くチームみんなで考えることができ自分たちができることを分かりやすく意見にし、上手くまとめて発表することができたので良かったです。創造力や柔軟性でもなかなか生み出す力ができず戸惑うこともあったけれど団結してできて楽しかったです。
- ・県外を含め、九州外の多くの人と触れ合うことで、新たに学ぶこともあった。また、社会人の人もおり、どうして短大に来たのかなどを知ることでもでき、いい経験になった。
- ・同じ学校の人とではなく、他県から来ている人とグループを組み、いろいろな話をして意見を出し合いました。グループで活動することがほとんどでコミュニケーション力があがったのではないかなと感じました。プレゼンテーションではパワーポイントを使い資料を作成しました。自分たちの意見を元に資料作成したので、やりがいがあり、とても面白かったです。あと、他県からほとんどの人が参加しているので方言が面白かったです。
- ・他の短大の話がたくさん聞けてとても刺激を受けました。学生が講師となって授業をしたり、プレゼンテーション講座があったり、自分の為になるような授業がたくさんあることを知りま

図3. ポスター展示の例



した。貿易ゲームでは初対面の人たちと「どれを売ったら利益が取れるか？」を考えながら、楽しんで参加できたと思います。グループワークでは自分の意見を言うことができ、他の人たちの話もきちんと聞けました。発表が始まるギリギリまでパワーポイントに力を入れ、発表もうまくいったと思います。とても有意義な2日間になりました。

4. 「教職員の部」の成果検証

教職員対象のプログラムでは、1日目に情報交換会として「特色ある教育」のポスター発表が行われた。5～6名の小グループに分かれ、自校の特色ある授業についてローテーションでポスター発表を行った。同じグループになった短大の説明しか聞くことができず、掲示されている内容も各校で差があったため、後からポスターを見ただけではどのような教育を行っているのかわかりづらいものもあった。

説明を聞くことができた中で特に興味深かったのが、京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科の「D*Light」という学生組織である。以下は、「D*Light」の活動を紹介するパンフレットからの抜粋である。

- ・学生リーダー組織として2012年に発足。
- ・「学生FD=学生が教職員と協力して行う、学

図4. ポスター発表の様子



生が過ごしやすい大学環境を構築する活動」と解釈して活動している。

- ・これまでに「学生FDサミットの参加」「学生提案型授業の開発」「学科イベントの企画運営」などを行っている。

「D*Light」は、本学の学友自治会のような委員会組織ではなく、学生たちが自主的に結成した組織である。2012年の結成以降、毎年積極的に学外活動を行った結果、この組織の活動が認知されるようになり、「D*Light」に参加したいという理由で入学してくる学生も出てきたそうである。顧問の鹿島我先生によると、対外的な活動が多いこともあり、学生たちには社会人としてのルールを徹底的に守らせるなど、かなり厳しく指導され

ているそうである。そのため、4月の時点で40人ぐらいいたメンバーもしばらくすると半分に減るが、やる気のある学生が残って頑張っているとのことであった。

香蘭女子短期大学でも「D*Light」の活動を参考に「Koran Girls」という組織を作り、今回の短大フォーラムで全体の司会進行や学生のグループワークでのファシリテーターとして活躍していた。

教職員対象のプログラムの2日目は、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

基調講演では「糸島版マーケティングモデルでわかる産・学・官・地域共創の作り方」と題し、福岡県糸島市役所企画部秘書広報課ブランド推進係主査の岡祐輔氏から、具体的な事例発表があった。

糸島市ではなく福岡市の高校生に依頼して、糸島市の特産品を開発するなど、少し離れたところから、地域の魅力を発見してもらうという視点が独特で参考になった。また、「産・官」が「学」に求めていることとして、各大学が得意なところ、できることを教えてもらえれば、「産・官」が連携できることがたくさんある。「学」の方から、「産・官」に対してもっと積極的に情報提供して欲しいと仰っていたのが印象的だった。

パネルディスカッションでは、下記の4名のパネラーによる活動内容の紹介が行われた。

- ・九州熱風法人よかごつ代表 大堂良太氏
- ・福岡県糸島市役所企画部秘書広報課ブランド推進係主査 岡 祐輔氏
- ・京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科教授 鹿島 我氏
- ・短期大学コンソーシアム九州 事業推進委員長 藪 俊晴氏

パネラーの一人である鹿島先生は、「短大はつぶれる」「大学の中に出会いはない」「学生の伸びしろは無限」という刺激的な言葉を発しながらも、「D*Light」の活動を通して学生たちが、様々な世代の方々とコミュニケーションをとり、地域の方々に頼りにされ、感謝される体験をすること

で、生きる力を身に着けることができていると力強く仰っていた。我々教員の役割としては「学外の方々と弱いつながり（weak ties）をたくさん持ち、狭い世界で生きている学生たちを、広い世の中に連れ出すことである」という考え方が大変参考になった。

今回の短大フォーラムには、ビジネス・医療秘書コースの1年生19人とクラスの半数以上が参加し、「Koran Girls」の活動状況も目の当たりにしたことで、同じ年代の短大生が活躍する姿を見ることができた。今後は、「キャリアアップセミナー1・2」や「プレゼミナール」の授業を活用して、対外的な活動に積極的に参加し、運営に携わる機会を設けることで、学生たちに「D*Light」や「Koran Girls」の活動に匹敵するような体験をさせてみたい。

5. 今後の展望

中央教育審議会は2012年の用語集で、サービス・ラーニングを「教育活動の一環として、一定の期間、地域のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験することによって、それまで知識として学んできたことを実際のサービス体験に活かし、また実際のサービス体験から自分の学問的取組や進路について新たな視野を得る教育プログラム。」と定義している。また、「サービス・ラーニングの導入は、①専門教育を通して獲得した専門的な知識・技能の現実社会で実際に活用できる知識・技能への変化、②将来の職業について考える機会の付与、③自らの社会的役割を意識することによる、市民として必要な資質・能力の向上、などの効果が期待できる。」としている。

また、松下佳代氏は2019年9月に長崎国際大学で開催された「教育改革FD研修会」において、「学習の深化と成果の可視化」について次のように報告している。「学習の深化」では、文科省が提唱したアクティブ・ラーニングを「学びの三位一体論」を用いて説明し、「主体的な学び」を「自己」、「対話的な学び」を「他者」、「深い学び」を「対象世界」として捉えた。また、「深い学び」を重視したディープ・アクティブラーニングの説

明では、「深い学習」「深い理解」「深い関与」、「意味」「概念」「推論」の「思考パターン」の重要性を唱えた。さらに、具体的な学びの手法としては、「対話型論証」のツールとして「三角ロジック」と「論証モデル」について示した。一方、「成果の可視化」では、学習成果の評価が学生の学習と教員の教育にとって有効に活用できるものでなければならない点を強調した。また、学習成果の評価を捉える3つの軸として、①直接評価と間接評価、②量的評価と質的评价、③科目レベル・プログラムレベル・機関レベルの評価、の重要性を唱えた。

長崎女子短期大学のビジネス・医療秘書コースでは、2年生のゼミナールの必修科目において、地域交流・地域貢献を統一テーマとしたサービス・ラーニングに2015年度から取り組んでいる。また、1年生のプレゼミナールの必修科目においても、サービス・ラーニングに関連するテーマについて、グループディスカッション等のアクティブ・ラーニングを取り入れている。

今後は、今回の短大フォーラムの学修成果をキャリア教育・職業教育のプログラム開発に活かし、上述の松下氏が提唱する「学びの三位一体論」や「対話型論証」の手法も導入して、学生の主体的・対話的で深い学びを涵養するアクティブ・ラーニングをより効果的に実践していきたいと思う。

参考資料

- 1) 中央教育審議会：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」、2012
- 2) 中央教育審議会：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（用語集）」、2012
- 3) 松下佳代：「学習の深化と成果の可視化」、教育改革FD研修会、2019
- 4) 武藤玲路・桑原哲章・久保知里：「学生の自己評価からみた短大フェスのサービス・ラーニングとしての有効性」、短期大学コンソーシアム九州紀要、9、2019